



「ドボクまち歩き2」 土木構造物を観る視点

学生企画「休日ドボク」。前号は「ドボクまち歩き」と題し、まちの歩き方とその実践例を紹介した。今号はその第2弾とし、まち歩きを行う際の土木構造物の観る際の視点を紹介する。土木構造物を「楽しく」観る視点とは。

楽しく土木構造物を観る

前号の「ドボクまち歩き」では、まち歩きをプランする際のポイントを紹介した。では、実際にまち歩きを行う中で土木構造物を観る時、われわれはどのような視点を持つと楽しく観ることができるだろうか？ 日頃何気なく目にしていく土木構造物も、観方を変えただけで興味深くなるかもしれない。そんな思いから、今回はまち歩きの際に土木構造物を楽しく観る視点を、景観工学を専門とし、土木遺産のツアーでも企画・講師を担当する近畿大学理工学部教授の岡田昌彰先生に伺った。

楽しく観るための

三つの視点

土木構造物を観るとき、「三つの視

点」を持つことで、より楽しくまち歩きができる、と岡田先生は話す。詳しくは次の通りだ。

1. 構造物に反映された

建設当時の文化・思潮を探る

土木構造物のデザインには、建設当時の文化・思潮が反映されている。後者がある程度理解しておくことで、構造物が現状の姿となるに至ったプロセスを現地で探ることができる。

2. 都市的スケールでの

ストーリーを知る

土木構造物単体についてはもちろん、周辺地域の文脈やその変遷を知ること、土木構造物が地域の中に担ってきた役割を理解することができる。

構造物の存在の影響を受けながら周辺の都市が形成されていくケースもある。土木構造物に着目することで、

都市全体が紡ぎ出したストーリーを理解することができる。

3. 材料・技術の変遷を知る

材料や土木技術は常に進化してきた。建設に用いられる材料や構造形式などを現地で観察することで、進化の過程を深く理解することができる。当時の土木技術者が編み出した斬新なアイデアが発見できれば理想的だ。仮にそれが現代社会においてはすでに忘れ去られているようなものであれば、その発見には大きな価値があるだろう。

三つの視点を持ち、 まち歩きへ

以上の三つの視点を持ち、われわれ学生2名で実際にまち歩きを行った。場所は大阪・淀屋橋駅から梅田

【アドバイザー】
岡田 昌彰

近畿大学 理工学部 社会環境工学科 教授

OKADA Masaaki

東京工業大学土木工学科卒業。長大、国総研、東大研究員を経て2013年より現職。ケンブリッジ大学客員研究員。専門は景観工学、ヘリテージスタディ。著書に「テクノスケープ～同化と異化の景観論」(鹿島出版会)等。



駅までの地下鉄御堂筋線沿いの約2km、2時間のコースだ。今回ここを選んだ理由は、御堂筋沿いは大阪の近代化を象徴する土木構造物が多く存在するからである。なお、まち歩きプランの組み立て方については、前号を参考に行っている。

まずわれわれは地下鉄御堂筋線の淀屋橋駅に降り立った。天井を見上げると、アーチ状(ヴォールト天井構造)をした駅舎が目に入る。蛍光灯を円柱状に巻いてシャンデリアを模しており、当時の駅舎デザインへの関心の高さがうかがえる。また、アーチ状にすることで、天井を支える柱を減らし大空間として美しくつくろうという意図もうかがえた。

続いて、われわれは駅を出て中之島周辺を巡った。ここには、橋だけな

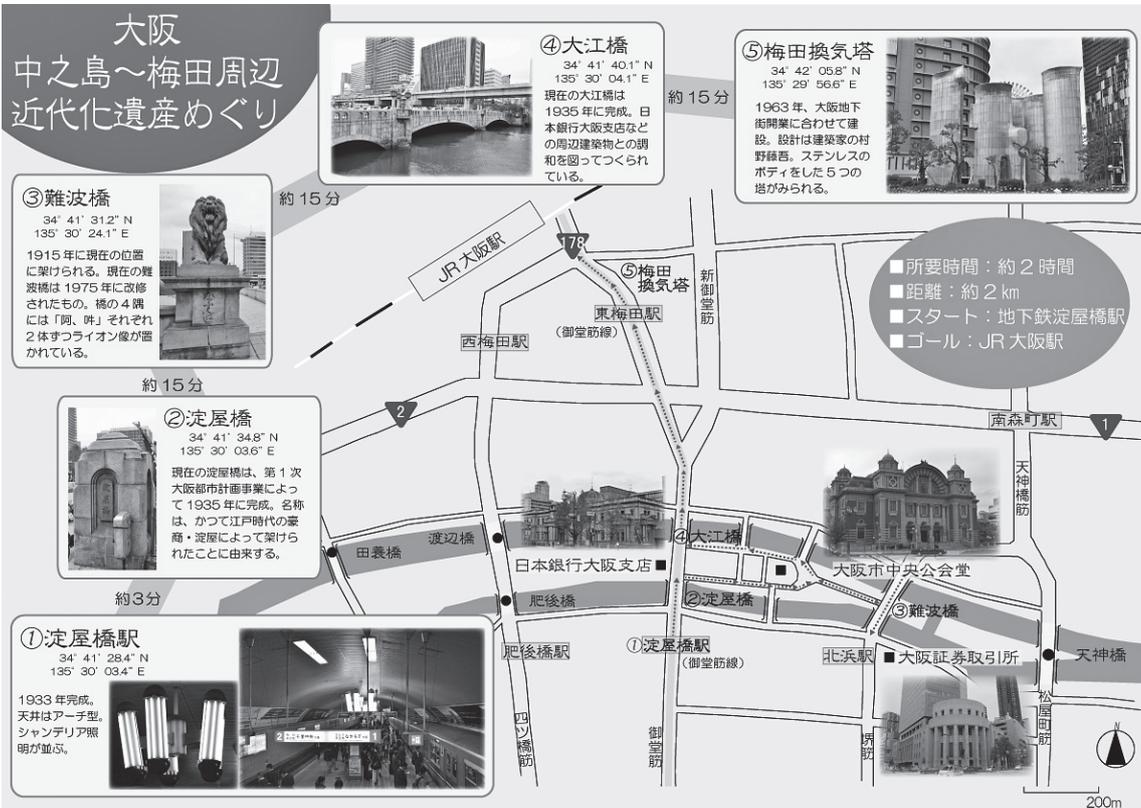


図1 大阪中之島～梅田周辺の土木まち歩きマップ

く周囲の建築物も一体的に景観を整備する思想があったという。実際にまち歩きをする中で、淀屋橋や大江橋は、その近くにある日本銀行大阪支

店やかつての大阪市庁舎など周囲の古典主義的な建築物に配慮した外観となっていることがわかった。また、中之島周辺の橋梁群はそれぞれ建設

年や材料、形状が異なっており、当時の技術やデザインの秀逸さを実感することができた。さらに、橋梁ごとに親柱のデザインが異なっていることが印象的であった。難波橋の親柱はライオンの彫刻となっており、神社の狛犬のような役割を持たせるという意図があったのかもしれない。

そして中之島周辺から御堂筋を通って梅田駅に向かう途中、正面に不思議な形をした構造物を発見した。その場でインターネットを使い調べたところ、これは梅田駅の地下空間を換気するための換気塔であることがわかった。日本の近現代建築の巨匠・村野藤吾(1891～1984年)の手によるものだ。建設当時、換気塔は換気の機能のみであれば良いという思想であったのにもかかわらず、換気塔にこのようなデザインを施し、まちのモニュメント的な存在へと変貌させ、その後換気塔が新たな役割を持つものと認識させるきっかけとなったものと思うと、とても興味深く観ることができた。そして梅田駅に到着し、今回のまち歩きは終了した。御堂筋とその周辺は、橋や地下空間といった土木の世界を軸としてま

ちが形成されていることを実感でき、たまち歩きとなった。

まち歩きを行う際に役立つもの

読者のみなさんがまち歩きを全国各地で行うためにお勧めするのが、都道府県別に発行されている「近代化遺産総合調査報告書」だ。こちらは図書館や一部インターネットで閲覧が可能である。また、土木構造物によっては詳細な住所の情報を手に入れることが難しい場合があるが、近年では地図検索機能やスマートフォンのGPS機能の発達により、目的の土木構造物の住所ではなく緯度経度の座標をメモしておくことで、より確実に目的地へ向かうことができる、と岡田先生は言う。これらを活用し、日進月歩で進化し続ける「まち歩き道具」をフル活用し、ぜひみなさんも各地でまち歩きを行っていただきたい。

〔執筆〕

山下 優輔 学生編集委員

〔写真・マップ〕

寺嶋 茂樹 学生編集委員